

静岡ふるさと通信

vol.15

学生が選定した県産品を東京駅前のセレクトショップで販売 「アナザー・静岡」 3月2日まで開催中

[詳細は
こちら](#)


静岡県東京事務所は、アナザー・ジャパンと協働して「アナザー・静岡」を開催しています。「アナザー・静岡」を通じて首都圏在住の若者とのネットワークを構築するとともに静岡県内の魅力的な企業、商品を発信力のある若者目線で選定し、その魅力を首都圏の若者に発信します。

コラボレーション企画展

2月18日から3月2日までの期間限定で首都圏在住の学生が「やらまいか！あたらしい、あたらしいに出会える静岡旅」をテーマに静岡で出会った県内企業5社の工芸品や食品など約30商品を店頭で販売。今回の商品は、県外出身の大学生2名が県内のものづくり企業を調べ現地まで足を運んで選定しました。若者目線で見た静岡の魅力ある商品を店頭で御覧ください。

アナザー・ジャパンとは・・・

三菱地所株式会社と株式会社中川政七商店（本社：奈良県奈良市）のサポートのもと、首都圏在住の学生が東京駅前で経営する47都道府県地域産品セレクトショップ。現在は約20名のメンバーが活動。参加学生が日本各地に自ら足を運び、商品選定、仕入れ交渉、プロモーション、店舗運営・接客を手掛ける。

営業時間：10時～19時（月曜定休、祝日の場合は営業）

住所：東京都千代田区大手町2丁目6-3 TOKYO TORCH

錢瓶町ビルディング1階 ゼにがめプレイス（東京駅から徒歩5分）



特設棚と担当学生

【商品取扱企業】

iwakagu（静岡市）、ちぎり清水商店（焼津市）、ぬくもり工房（浜松市）、HUIS（浜松市）、TeaRoom（東京都渋谷区、生産工場：静岡市）

静岡県アンテナコーナー「おいしず」のオススメ

今月のオススメ商品は、「ふじのくに新商品セレクション2024」の金賞を受賞した「あみにょん焼き（12個入り）」（函南町：酪農王国株式会社）です。優しい阿弥陀如来様のお顔で、見てほっこり、食べてにっころの「あみにょん焼き」。函南町の大切な文化財「阿弥陀如来像」をモチーフに、地元の「丹那牛乳」のバター製造過程から生まれる本来は廃棄されていた「バターミルク」を有効活用して作った焼菓子です。味はプレーンとキャラメル風味の2種類。

美味しい味と見た目の可愛いらしさに大人気。

お茶やコーヒーにもよく合い、お土産や贈答品にも最適です。



静岡県ならではの商品を販売中

静岡県アンテナコーナー

『おいしず』

JR秋葉原駅 徒歩2分

CHABARA内

「日本百貨店 しょくひんかん」

東京都千代田区神田練堀町8-2（JR高架下）

おいしずの詳細

おいしず楽天市場店



静岡ふるさと通信に関するお問い合わせ

静岡県東京事務所 〒102-0093 東京都千代田平河町2-6-3都道府県会館13階
☎03-5212-9035 ✉

Cha Open Innovationによる静岡茶の新たな価値と需要の創出

【ChaOI（チャオイ）フォーラム事務局 コーディネーター】

福島 寛孝 氏

静岡茶の新たな価値と需要の創出を目指して活動しているChaOIフォーラム事務局コーディネーターの福島さんに静岡茶の魅力発信などについてお話を伺いました。

ーChaOIフォーラムの概要について教えてください。

「Cha Open Innovation フォーラム（以下、ChaOIフォーラム）」は、生産者、茶商、加工業者、飲料・機械メーカーや大学・研究機関、関係団体などからなるプラットフォームです。会員間のオープンイノベーションにより、静岡茶の新たな価値を創造する取組を進めています。ChaOIフォーラムは令和2年3月に静岡県が設立し、県内外の810者（令和6年12月末時点）の産学官民の多様な主体が参画し、革新的な商品や新しい利用方法、販路の開拓、需要に応じた生産構造への転換＝「ChaOIプロジェクト」を推進することを目的とした組織です。主な取組として、会員を対象とした情報発信、セミナー開催、コーディネーターによるChaOI補助金事業の支援、会員間のマッチング、事業支援など行っています。なお、ChaOIフォーラム事務局は、菊川市倉沢の静岡県茶業研究センター内にあり、お茶の先端研究開発とオープンイノベーションの拠点である茶業研究センター（ChaOI-PARC）との連携支援も行っています。

ー福島さんの仕事内容は。

静岡茶の新たな価値の創造と需要の創出のため、異業種の技術やアイデアを組み合わせ、お茶の様々な事業を支援、コーディネートしています。最近では、オフィスでのお茶の需要喚起のためにNTT西日本や静岡鉄道等の静岡県内の企業と組んで呈茶販売イベントの企画・実施をしました。また、地元のJリーグクラブ「ジュビロ磐田」の防災お茶パンを企画・商品化する事業に携わりました。静岡茶の首都圏広報では、静岡県茶業会議所を事業主体として、上野アメ横商店街と連携したイベントを開催しました。

ーオフィスでの呈茶販売の経緯を教えてください。

首都圏を中心とした企業のワーケーションで講師を務めた時に複数の企業とのお縁があり、オフィスに給茶機が無いとお聞きしたので、呈茶販売を企画しました。当企画は、茶生産者が企業のリフレッシュルームなどで呈茶を行い、社員は好きな時に好きなだけお茶を試飲できるというものです。茶生産者も大企業のオフィスという通常では出店できない場所でお茶を販売するメリットがあります。NTTでは静岡市



福島コーディネーター

内の3営業所や浜松支店、沼津支店などで10回程度実施し、静岡鉄道では、健康経営の促進の一環としてセミナーとお茶販売をセットで実施しました。



オフィスでの呈茶販売の様子

ー「ジュビロ磐田」の防災お茶パンは面白い企画ですね。どのような経緯で実現されたのでしょうか。

ジュビロ磐田のホームタウン拡大を機に防災お茶パンを企画し、お茶と防災という静岡の地域課題解決を目的にジュビロ磐田、ホームタウン各市町、茶生産者などをマッチングして商品化に結び付けました。遠州地域の7市1町の自治体も関連する大きなプロジェクトとなりました。



防災パン 【写真提供：ジュビロ磐田】



静岡県茶業研究センター

インタビュー企画 静岡茶を知る人

また、同様の取組を静岡県内で活躍するJリーグクラブ「清水エスパルス」と「アスルクラロ沼津」、なでしこリーグの「静岡SSUポニータ」にも横展開しました。各チームのホームタウンの市町で生産されたお茶を利用することで独自色のある商品になりました。防災パンは、令和6年11月に開催された「浜松お茶まつり」で初めて販売しました。今後、各クラブチームでの販売や関連自治体での備蓄品としての採用、利用などの機会を増やしていきます。



浜松お茶まつりでの販売の様子

一上野アメ横商店街との連携イベントも盛況でしたね。

上野アメ横商店街連合会の副会長である伊勢音の山崎社長とコロナ禍によりお茶の販売支援をしていたご縁から上野アメ横商店街と静岡県茶業会議所を引き合わせ、販売イベントが実現しました。このイベントは、ChaOI補助金事業を活用して、令和6年10月に開催しました。上野アメ横商店街5店舗の店頭で静岡県の茶生産者とお茶屋さんが呈茶販売を行いました。あいにくの天気でしたが、多くのお客様に静岡茶を知って味わっていただく機会になりました。本年のNHK大河ドラマ「べらぼう」の舞台が台東区であることから、徳川家康などの大河ドラマの先例を参考に上野アメ横商店街には静岡茶とのコラボを快く受けいただきました。今後も商店街とのつながりを



上野アメ横商店街との連携の様子

大事にして、アメ横商店街を訪れる多様な人々に静岡茶を購入いただける機会を作っていきます。

一首都圏の方にオススメの静岡県内のイベントはありますか。

今年、静岡県で3年に1度のお茶の祭典「世界お茶まつり」が開催されます。静岡茶市場のほか県下全域及び首都圏、関西圏で開催される春の祭典と県内最大級のコンベンションセンター「グランシップ」を会場とした秋の祭典が催されます。『参加者が世界のお茶文化に触れ、燦然と輝く一人ひとりのお茶の世界』とあるように、茶の都ともいわれる静岡には、様々な種類のお茶と多くの楽しみ方があります。是非、静岡に足を運んで、多くのお茶に触れて、ご自身に合ったお茶の楽しみを見つけていただきたいと思います。

一マッチングで苦労することはありますか。

マッチングは、単に二者間を引き合わせるだけで上手くいくケースばかりではありません。それぞれの強みや特色を見出したうえで、マッチング後に両者がどのような形となって事業が展開できるかを常に想像してマッチングを行っています。静岡茶は、「やぶきた」という品種が多くを占めるので、他との差を出しにくい場合が多々ありますが、作り手の人柄や取組に着目して、マッチングを行うことに苦労があります。また、私のようにお茶に囲まれた環境で育った人ばかりではないので、そういった人たちにどうしたら静岡茶に魅力を感じ、親近感を持って飲んでもらえるかを理解して、一人一人にあった形で伝えていくことが難しいところでもあります。

一首都圏での静岡茶の反応はどうですか。また何を求められていると感じますか。

首都圏には、静岡県は日本一の茶産地という認識を持っている方が多く、提供のお茶に対する期待や評価も高いと感じています。一方で、県内には多くの茶産地があるので、個々の産地やその茶の特色などは、まだ十分に知られていないと感じる場面も多いです。静岡茶は、身体に良く美味しいという一定の評価はあるので、首都圏の方に、お茶を身近で体験したり、直接触れていただき、親近感が持てる存在になることが求められていると感じます。

一福島さんにとっての「静岡茶」の魅力を教えてください。

静岡茶は、日本一の茶産地といわれるだけあって、多種多様なお茶と、それを生み出す人たちがたくさんいます。お茶は単に商品として提供されるだけではなく、その裏には、様々な人がおり、その人たちの取組やお茶づくりにかける思いがたくさん詰まっています。そのような物語があることが静岡茶の魅力です。

一最後に今後の展望を教えてください

首都圏には、魅力的な人、場所、モノがたくさんあり、静岡では出会えない機会もたくさんあります。そんな静岡では出会えない機会を通じて、これまでとは異なる視点で、静岡茶の新たな価値と需要の創出につながる静岡茶の魅力を発信していきたいです。

プレゼント企画

記事で御紹介した「ジュビロ磐田」の防災お茶パン2缶等を抽選で5名様にプレゼント。

【応募方法】

- ①静岡県東京事務所が運営するX「まんぶく静岡in東京」をフォロー
- ②公開アカウントでプレゼントキャンペーンの投稿に「#防災お茶パン」をつけてジュビロ磐田の応援メッセージを引用投稿

【応募期間】

令和7年2月20日（木）10時～
令和7年3月20日（木）10時



Xは
こちら



商品提供：ジュビロ磐田

おすすめの地域情報

伊豆 花とロマンの里 松崎の田んぼを使った花畑 (松崎町)

松崎町のシンボル「田んぼを使った花畑」が2月中旬から開催されます。25,000㎡一面に広がる花畑には、足湯やリアルかかし、お参りすると願いが叶うと噂の花畑神社が期間中のみ設置されます。花畑に囲まれた足湯に浸かりながら日々の疲れを癒やしてください。また、3月下旬から4月上旬には、隣接する那賀川沿いの桜並木も一緒にお楽しみいただけます。



- 開催期間 令和7年2月中旬～5月5日
- 開催場所 松崎町那賀地区
- 問合せ先 松崎花畑実行委員会 (松崎町観光協会内) ☎0558-42-0745

詳細は
こちら



※花畑協力金のお願い

花畑継続のため、1グループ500円(9名様まで)。10名様1,000円、20名様以上の場合は、10名毎に500円プラス)をお願いしています。

中部 受け継がれる舞「藤守の田遊び」(焼津市)

「藤守の田遊び」は、毎年3月17日に焼津市藤守の大井八幡宮で行われる民俗行事で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。田遊びの起源は古く平安時代まで遡り、大井川の治水と1年の豊作を祈念して、田植えから稲刈りまでの農作業の様子を表す25組の演目と番外で構成される舞が奉納されます。藤守地区の未婚青年が演者となり、「ショッコ」と呼ばれる藁笠をかぶり、華やかな衣装を身にまとい舞う姿はとても幻想的です。

- 開催日時 令和7年3月17日(月) 11時～23時頃 (舞の奉納は18時～23時頃)
- 開催場所 大井八幡宮(焼津市藤守687)
- 問合せ先 焼津市歴史民俗資料館 ☎054-629-6847



詳細は
こちら



東部 第25回 富士錦 蔵開き (富士宮市)

今年で25回目となる「柚野村おこし・富士錦蔵開き」が開催されます。富士宮市西部、富士山の南麓にある柚野地区で300年に渡り酒造りを続けている富士錦酒造は、創業以来、柔らかな富士山の湧き水を仕込み水として使用しています。蔵開き当日は、新酒の試飲、蔵開き限定酒の販売、柚野地区の地場産物の販売やこどもの遊び場などがあります。ぜひ御家族やお仲間と一緒に訪れ、楽しんでください。



- 開催日時 令和7年3月16日(日) 9時～15時
 - 開催場所 富士錦酒造(富士宮市上柚野532)
 - 問合せ先 富士錦酒造株式会社 ☎0544-66-0005
- ※当日は混雑が予想されますので、可能な限り公共交通機関や会場直行的の有料シャトルバス(富士宮駅北口発着)を御利用ください。



西部 3年に1度の開催「森の石松まつり」(森町)

3年に1度の「森の石松まつり」が3月23日に開催されます。森の石松をはじめとする清水次郎長一家に扮した「石松道中仮装行列」が町内を練り歩きます。石松の墓がある大洞院では供養祭が行われ、森の石松に感謝を捧げるとともに、森町のさらなる観光発展を祈願します。また、大洞院では、甘酒や森の茶が無料で振る舞われ、イベント限定商品「勝運!石松だんご」や「石松×コモコモどら焼き」、特産品や「石松餃子」が販売されます。3年に1度の大会へ、ぜひお越しください。

- 開催日時 令和7年3月23日(日) 10時～15時
- 開催場所 大洞院、森市街ほか(森町橋249ほか)
- 問合せ先 森町観光協会 ☎0538-85-6316



詳細は
こちら



編集後記

東京事務所に赴任して間もなく2年の歳月が過ぎようとしています。これまでに渉外担当として、県選出国会議員の秘書や関係省庁の方々、また、企業誘致担当として、首都圏の企業の方々との数多くの出会いがありました。赴任に当たり前任者からの助言で名刺をアプリで管理するようになったのですが、先日アプリを確認したところ、1100人を超える方々と名刺交換をしておりました。いただいた名刺を積上げると約30cmになりました。多様な価値観や異なる経験を持つ方々との交流は、県庁という組織の中で仕事をしてきた自分にとって、時に反省をし、視野を広げる機会となりました。

「一期一会」の思いを胸に、これからも県庁と首都圏の架け橋となっていければと思っています。



静岡県東京事務所
次長 辰巳 信明